

# 大分高専が展開する「アグリエンジニアリング教育プログラム」を履修して、我が国の農業の将来を支える「アグリエンジニア」になろう！！

**設置の趣旨：** 我が国の農業の将来を豊かなものにするには「農業の工業化」が不可欠であり、工業系企業の農業への参入や農業が抱える工学的課題解決には、農学の素養を持ったエンジニアの育成が大切であるとの考えに立ち、アグリエンジニアリング教育プログラムを設けました。多くの高専生が履修して、我が国の農業を支える「アグリエンジニア」として社会で活躍してくれることを願っています。

**教育の特徴：** 機械、電気電子、情報、都市環境の4学科が提示するエンジニア教育を「縦糸教育」(図1)としてこれまで通りしっかり履修することで、従来の就職先や進学先のニーズに応えるとともに、アグリエンジニアとしての活躍の基礎として設定する科目を「横糸教育」としてほとんど負担なく履修することで、社会が求める「農業の工業技術化」にも貢献できるエンジニアとなることができます。

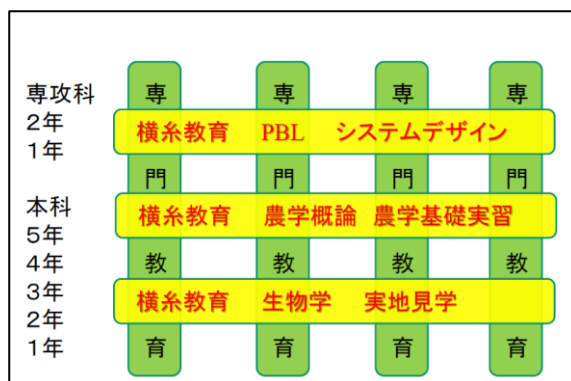


図1 アグリエンジニアリング教育

**カリキュラム構成：** アグリエンジニアリング教育プログラムとして設定する科目の履修次期を図2に示します。

本科では、低学年から高学年へと専門科目を楔形に配置し、まず専門科目をしっかりと学びながら、基礎科目の「生物」から始まるアグリエンジニア教育関連科目を受講して頂きます。

アグリエンジニアリング教育プログラムは、決して「農業従事者の育成」を目的としたものではなく、アグリエンジニアとしての意識醸成の4つの到達目標 A~D を定め、それを達成すべき授業科目を表1のように配置しています。

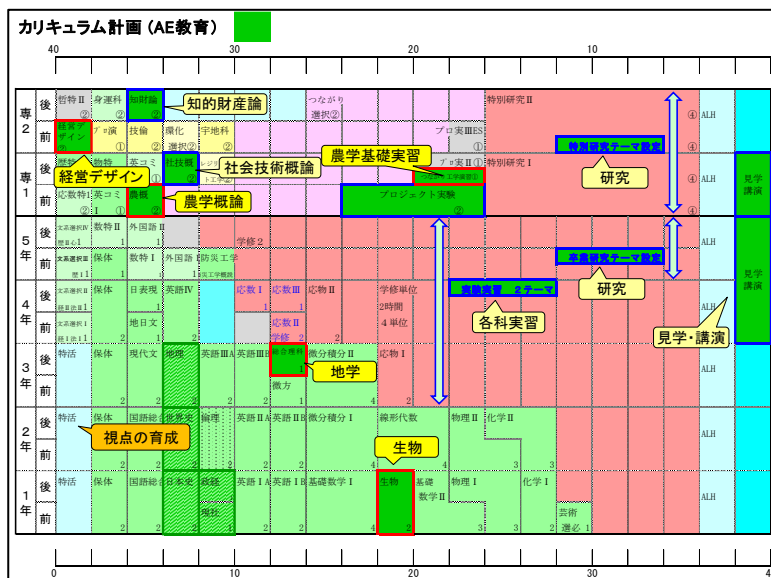


図2 横糸教育としてのカリキュラム構成

表1 大分高専アグリエンジニアリング教育プログラム修了要件科目等一覧

分類	到達目標	授業科目等	開講学年	選択・必修の別	単位数等
A	アグリエンジニアに必要な生物及び農学の素養を身に付ける。	生物	本科1年	必修	2
		総合理科(地学)	本科3年	必修	1
		農学概論	専攻科1年	選択	2
B	「ものづくり」と「いきものづくり」の異なる点、共通点を理解する。いきものを生産する難しさと面白さを体験する。	学科毎の専門工学及び農学関連の実験演習科目	本科(実施学年は学科に依存)	必修	1 (農学関連2課題)
		つながり工学演習(農学基礎実験実習)	専攻科1年	必修	1
C	農業現場もエンジニアが活躍できる場であると理解する。	講演会	本科・専攻科における関連科目内にて実施	実施関連科目に依存	実施関連科目に依存
		生産現場見学(実習)			
		本科卒業研究、専攻科特別研究			
D	工学的*な経営視点を学ぶ。(*農業に関連した)	社会技術概論	専攻科1年	必修	2
		経営デザイン	専攻科2年	選択	2

**修了証の発行：** 表1に記載のAの到達目標に置いたすべての科目、およびB~Dの目標それぞれに置いた科目で1科目以上の修得で、アグリエンジニアリング教育プログラムの修了証(図3)を発行します。修了証には、本プログラムに理解戴いている「農業食料工学会」からの期待を込めた会長印を戴いております。修了生には、就職等で提出する履歴書等の資格欄に「**アグリエンジニアリング教育プログラム修了(大分高専)**」と明記して、就職先企業等で関心を持って戴く行動をお願いします。そして積極的にプログラム設置の趣旨を説明し、農業への参入時には「アグリエンジニア」として活躍したい旨のアピールを語って下さい。



図3 教育プログラム修了証

**修了生の声：** 「将来、農業に従事しない」との考えもありますが、近年では農業に工業は無くってはならないものになっているように感じます。将来どのような職業に携わるかは分かりませんので、様々な視点から物事を見ることができるようになっておくことが大切と思っております。

**就職先や進学先からの意見：** 工学と農学のクロスオーバーは非常に面白いと思います。今後の農業技術の革新が日本の将来に必要なことの動機付けとして期待します。進学先の一つに、農学系大学院もあるのではないのでしょうか。